

芥川賞作家の随筆に焼野海岸が！

芥川賞作家の村田喜代子さんの随筆集『尻尾のある星座』(2005年、朝日新聞社刊)に「肖像画になった犬」というエッセイがあります。車庫のシャッターに描かれたシベリアン・ハスキーの犬の絵を見に「山口県のとある海辺の町」に出かけますが、明記はされていないものの「付近は日本の夕陽百選にも選ばれている海岸」とあるように、この海辺の町が山陽小野田市の焼野海岸であることがわかります。「日本の夕陽百選」には萩市も選ばれていますが、実際にシベリアン・ハスキーが描かれたシャッターのお家もあることから、このエッセイに出てくる町は山陽小野田市と特定されます。以下、少し引用してみましょう。

「行く先は山口県のとある海岸の町だ。付近は日本の夕陽百選にも選ばれている海岸だが、私たちは夕陽を見に行くのでも遊びに行くのでもない。岬の突端に近い県道沿いに人家があって、その車庫に描かれた絵を見に行くのが目的だった。訪ねる家は車の修理業のようで、広い敷地に何台もの車が置かれ、通りに面して三棟の車庫が並んでいた。その三棟の車庫のシャッター一杯に、シベリアン・ハスキーの大きな肖像画が描かれていたのである。十日前、私は非常勤で通っている大学の創作ゼミの生徒たちを連れて、海岸の研修施設に泊まりに行ったのだった。その道すがらシャッターの犬の絵に出くわした。」

※文中の「海岸の研修施設」は「きらら交流館」のことですね。



▲シベリアン・ハスキーが描かれたシャッター(写真:田中信)